

図 13 発信機付漂流ボトルの漂流・漂着経路
(放流直後~平成 20年 1月 10日 12:00 までの経路)

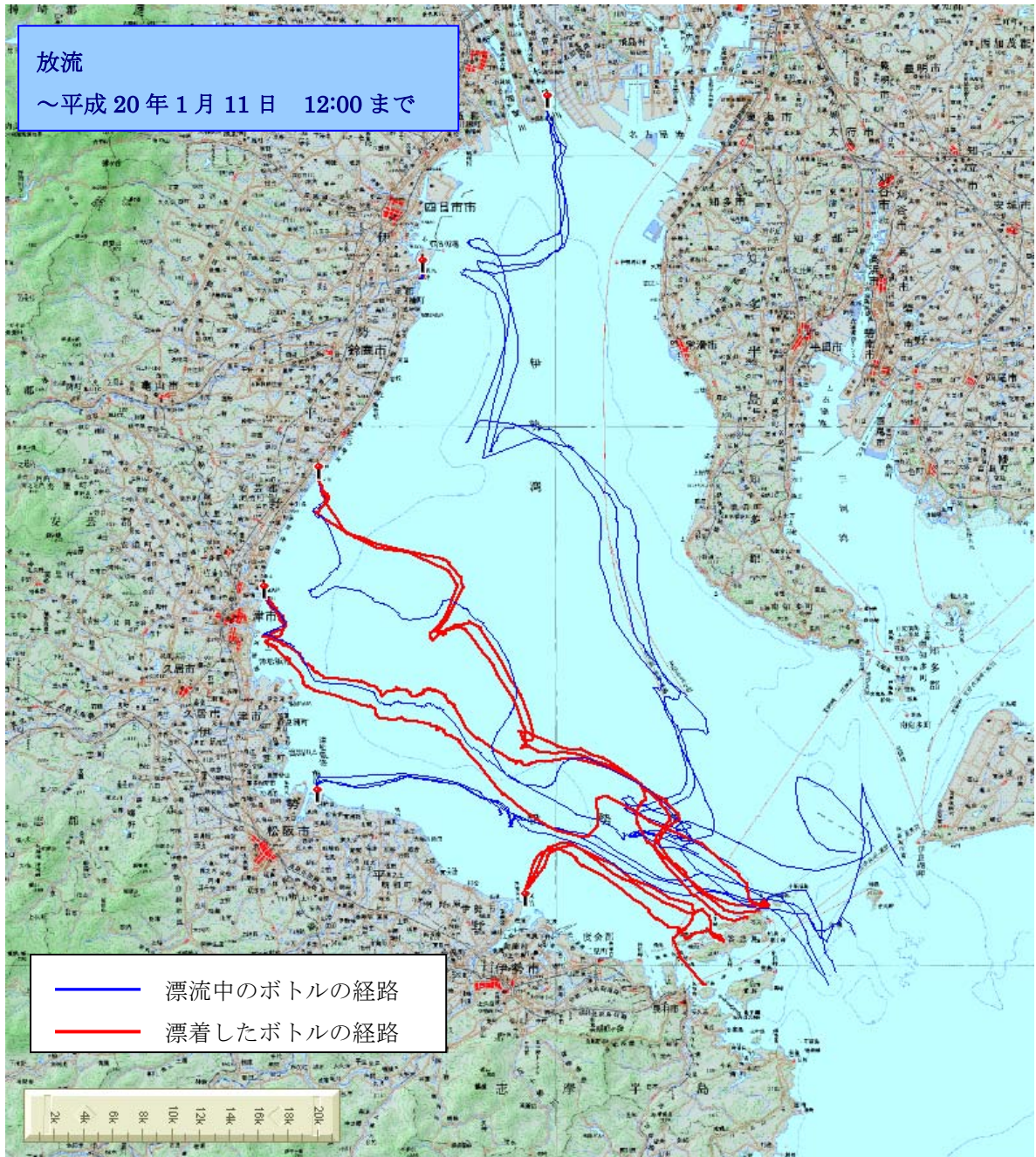


図 14 発信機付漂流ボトルの漂流・漂着経路
(放流直後~平成 20年 1月 11日 12:00 までの経路)

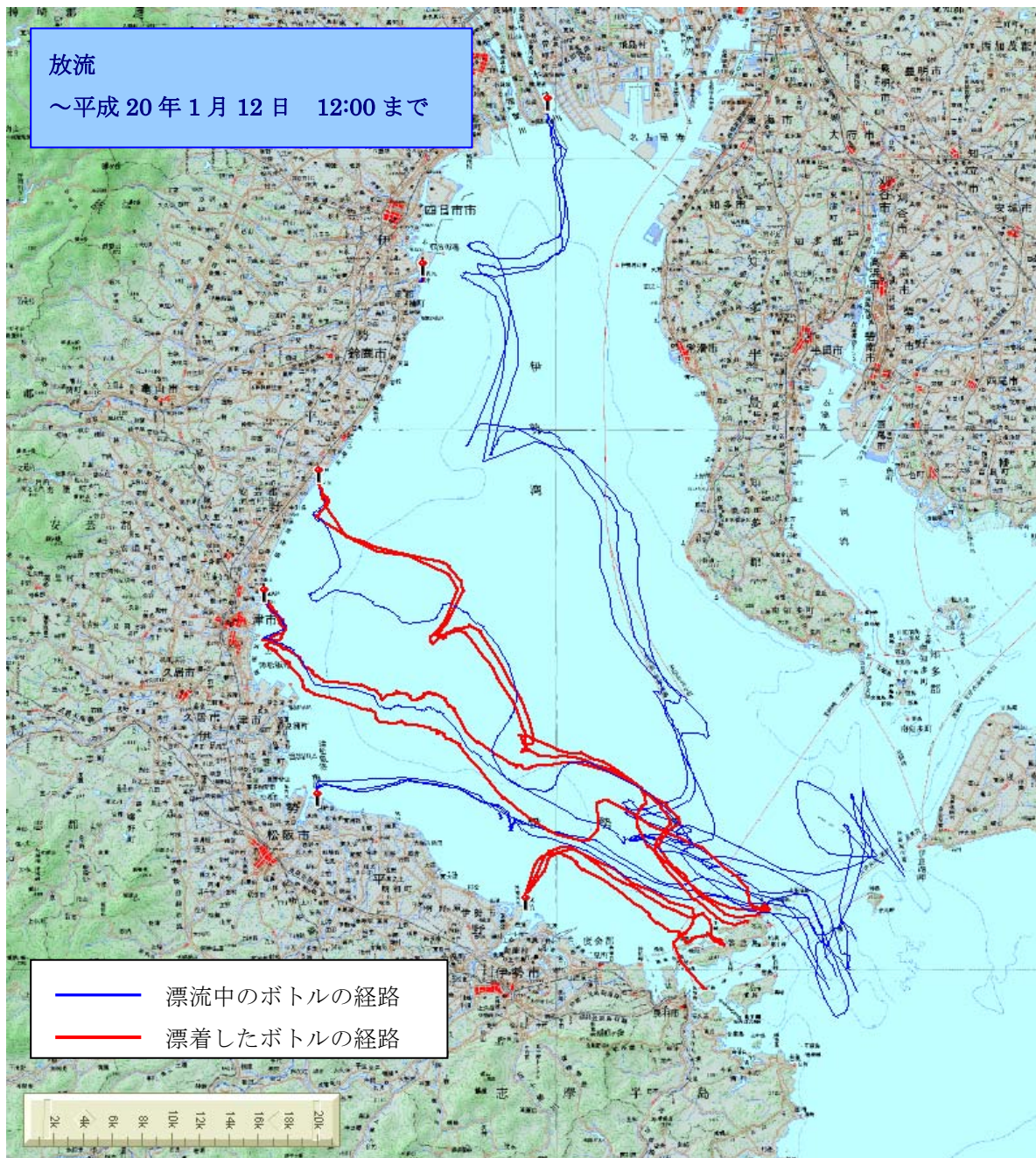


図 15 発信機付漂流ボトルの漂流・漂着経路
(放流直後~平成 20 年 1 月 12 日 12:00 までの経路)

(3) 漂流ボトルの漂着割合（生分解性漂流ボトル調査結果）

生分解性漂流ボトルについては、発信機付漂流ボトルの漂着情報や一般市民から寄せられた回収報告を参考とし、漂着の確認及び回収を行った（図 16）。



図 16 生分解性漂流ボトルの漂着状況

①②：平成 20 年 1 月 8 日答志島にて撮影、③：平成 20 年 2 月 7 日伊良湖岬周辺にて撮影

表 8 に生分解性漂流ボトルの回収状況を示した（同集計値には、一般市民から寄せられた回収報告（合計 16 本）も含まれている）。

表 8 生分解性漂流ボトルの漂着、回収状況

放流河川	伊勢湾内に漂着後回収
木曾川	30
鈴鹿川	90
中の川	0
安濃川	17
櫛田川	32
宮川	41
合計	211

図 17には生分解性漂流ボトルの漂着割合を示した。鈴鹿川河口での漂着事例（86本）は、発信機付漂流ボトルと同様、短時間で放流地点近傍に漂着したものである。

答志島では、安濃川放流分が17本、櫛田川放流分が32本、宮川放流分が41本回収された。伊良湖岬周辺の西の浜では、木曽川放流分が29本、鈴鹿川放流分が4本回収されている。木曽川放流分については、知多郡美浜町においても1本回収報告が得られている。

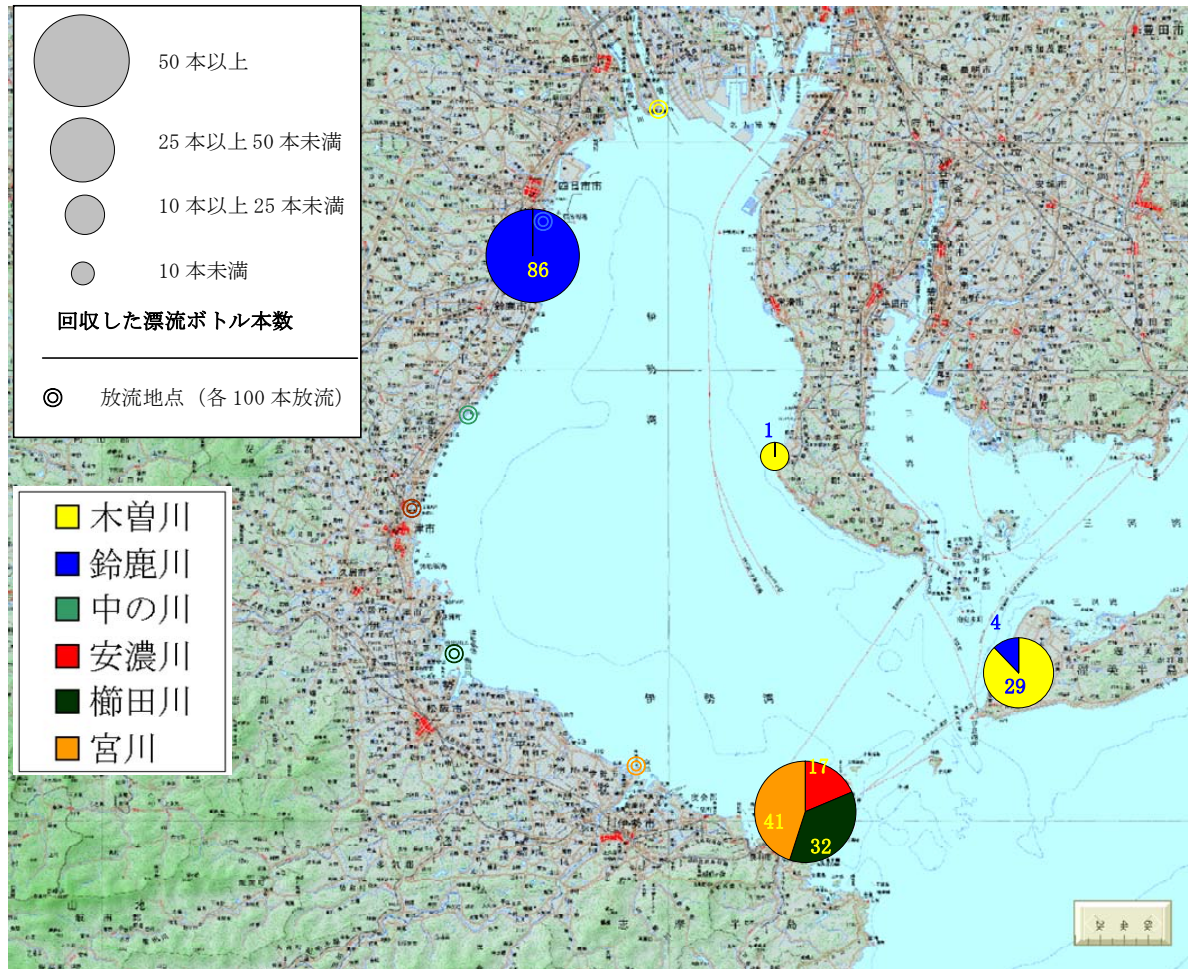


図 18 生分解性漂流ボトルの漂着割合